

サバイバル踏破 1 日目（8 月 5 日）



5 日目。これまで念入りに準備を行ってきたサバイバル踏破 1 日目を迎えました。夜も明け切らない時間から起床し、各班の計画に沿って、すべての班が B C を出発しました。天候は崩れることもなく、逆に暑い日差しが参加者の体調を崩してしまうのではないかと心配するぐらいの天候でした。しかし今年度は体調不良を訴えて B C に戻る参加者もなく、比較的順調に歩みを進めていきました。途中、班としての協力やお互いのことを考えることができなかつたり、逃げ出したてしまいたくなつたりする場面もありました。しかし辛いときも苦しいときも、やはり近くにいたのは V L であり、仲間でした。互いに励まし合うことで、どの班もビバーク地に到着することができました。

サバイバル踏破 2 日目（8 月 6 日）



6 日目。前日に引き続き、とても暑い 1 日になりました。2 日目ともなると、昨日は順調に進んでいた歩みがなかなか進まず、思うようにいかない班も出てきました。すると仲間同士の関係も上手くいかず、いろいろな問題も生まれたようです。悩んだり、苦しんだりすることも、このサバイバル踏破ならではの、貴重な体験です。それらを 1 つずつ解決しながら、歩き続けました。踏破中、休憩をしていると、島民の方から温かな声をかけてもらったり、ときには差し入れをいただいたりしました。八丈の方々の大きな心遣いに感謝するとともに、勇気をいただくことばかりでした。

サバイバル踏破達成（8月6日）



参加者は2日間の踏破をとおして、仲間と協力することで、成し得ることがあることを感じる事ができました。また八丈の方々の温かい心に触れることもできました。この感動は生涯忘れることのできない思い出となったことでしょう。ゴールの瞬間、今まで我慢し続けてきたこと、今まで経験することのなかったつらさや、それでも頑張り切った自分に、そしていつも励まし続けてくれた仲間に、涙をこぼす参加者がいました。みんなでゴールしたい。みんなで成し遂げたい。そんな思いだけを持ちながら歩き続けたサバイバル踏破は、参加者たちの「感じる心」を大きく育む、価値ある2日間となりました。

自主企画（8月7日）



7日目。この日は班から離れ、それぞれの計画で八丈島を楽しむことのできる自主企画の日となりました。「釣り」グループは早朝より、神湊港でたくさんの魚を釣り上げていました。「登山」グループは八丈富士山頂をから、ふれあい牧場を目指すコースを計画し、登山を満喫しました。「スノーケル」グループは、これまでにないぐらいの透明度の高い海で、多くの海中生物をみる事ができました。「島内探訪」グループは、自転車を利用して、八丈島ならではの体験活動と施設見学をすることができました。

八丈島の小中学生との交流会Ⅱ（8月7日）



この日の夕方は、2回目の交流会を行いました。夕食を一緒にバイキング形式で楽しむことができました。1回目よりも積極的に交流ができたことで、より楽しい時間となりました。天候が崩れることなく、その後のキャンプファイヤーも予定通り行うことができました。厳かな雰囲気の中、みんなで楽しむことができたことは、何よりも今年度の参加者にとって、良い思い出になりました。

閉村の日（8月8日）



8日目。あっという間に閉村の日を迎えました。この日も天気は快晴でした。八丈島に到着してから、今までの生活を思い出しながら、個人の荷物をパッキングしました。そして強い日差しのなか、撤収作業を行いました。備品やベグが足りなかった班もあったようでしたが、すべての作業を予定通りに終えることができました。作業開始より、八丈町教育委員会の方々には、すべての場面でご協力いただきました。手際よく、順調にすべての作業が進んだのは、八丈町教育委員会のみなさんのおかげでした。本当にありがとうございました。

さよならレセプション・第1部（8月8日）



八丈島での最後の夜、現地研修最後のプログラムとなる「さよならレセプション」を行いました。第1部では、「六人会」の皆さんに「八丈太鼓」を披露していただきました。体中に響き渡る迫力の太鼓の音で、知らず知らずのうちに太鼓の世界に引き込まれていきました。その後、みんなで作る最後の食事を美味しくいただきました。

さよならレセプション・第2部（8月8日）



第2部では、各班がこれまでの8日間で準備をしてきた「スタンプ」を発表しました。どの班のスタンプもとても工夫が凝らしており、とても楽しい時間を過ごしました。八丈島のできごとを伝える班、またVLに今までの感謝を伝える班、どの班もとても面白く、また感動することのできる発表でした。最後に「忘れられない夏・愛のテーマ」を合唱し、八丈島での最後の夜をかみしめるように、大切に過ごしました。この9日間は参加者にとって一生の思い出となったことと思います。

離島式（8月9日）



9日目。とうとう八丈島とのお別れの日が来ました。最後の夜を過ごした三根小学校では、感謝の気持ちを込めて、念入りな清掃を行いました。その後、底土港に移動し、離島式を行いました。そこでは参加者代表が、心のこもった現地研修での感想や八丈町の方々への感謝を伝えました。さらに、大変お世話になった八丈町教育委員会の方々へ、想いを込めて感謝の言葉を伝えました。その後、八丈富士を背景に、最高の仲間たちとともに記念写真を撮り、八丈町の多くの方々に見送られるなか、乗船しました。出航後、見送っていただいた方々と「八丈島」に、いつまでも手を振り続ける姿が、とても印象に残りました。

最終班別ミーティング（8月9日）



船内での夕食後、いよいよ竹芝桟橋が近づくと、船で仲間と過ごす最後の時間として、班別ミーティングを行いました。参加者それぞれが、自分の想いを精一杯の言葉にして伝えていました。また仲間やVL、そして指導者の想いを精一杯聞いていました。じっくりと9日間を振り返ることのできる時間となりました。32回目の海洋道中は、参加者を、そして指導者である大人たちをも大きく成長させてくれました。

解団式（8月9日）



ほぼ予定どおり、竹芝棧橋に到着しました。そして最後の「解団式」を行いました。団長からは現地研修のまとめとなる話を、参加者代表からは、これまでの現地研修を振り返る話とともに、多くの方々への感謝の想いが伝えられました。またV.L代表からは、この海洋道中への想いと、参加者の皆さんへの感謝の気持ちが伝えられました。この9日間は、かけがえのない時間であったということを改めて感じながら、第32回「やまなし少年海洋道中」現地研修の最後を迎えました。

ありがとう、八丈島！（8月9日）



今年度の32回「やまなし少年海洋道中」は、「令和」という元号のもとで新たなスタートを切りました。この令和元年の海洋道中においても、参加者一人ひとりの大きな成長とともに、一生忘れることのできない9日間を過ごしたことで幕を閉じました。

現地研修中、いつも近くでサポート体制を整えてくださっていた八丈町教育委員会の皆さんの多大なる協力、さらには八丈町の方々の心温まる優しい言葉に何度も助けられ、勇気づけてもらいました。参加者や指導者が、これまで以上に大きく成長することのできた「八丈島」に感謝しながら、今年度の「でっかい体験」は無事に幕を閉じました。